『花を訪ねて:　水仙』

とみやま水仙歩道散策（2023 年 1 月 11 日（日）

前回の 2019 年以来「コロナ禍」で房総の水仙を見に行くことができなかったが、今年は伊藤さんから新年の例会で「とみやま水仙遊歩道」のご提案があり、伊藤（L）、陽田の 2 名で実現することになった。

これまでは電車を乗り継いで出かけたが、今回は 8 時 50 分「バスタ新宿」発で南房総市にある「ハイウェイオアシス富楽里とみやま」まで行けるので、楽ちんである。バスは予約制なので先日「浅草七福神」の帰りがけにバスタ新宿へ来て買っておいた。当日朝は少し雲もあったがやがて晴れきて、アクアラインの海の上からは富士山も望見できた。定刻より少し早く 10 時 15 分に「富楽里とみやま」に到着した。道の駅本店舗は新装中で今夏の営業に向けて工事をしていた。まず仮設店舗を覗いてみると、食堂の方はラーメン、うどんなど、一方農協販売所の方には野菜、果物、お目当ての“菜の花”もあった。帰りがけでは品切れになっていると困るので、二人でこの“菜の花”を購入した。

道の駅を出て高速道路をくぐり、交通量の少ない道を東に向かって歩く。しかし風が冷たい！まだ日差しが弱いせいもあって、房総の暖かさは全くなかった。30 分ほど歩くと「とみやま水仙遊歩道」の看板が現れた。ここから山の上の方に上がって行くらしい。少し登ると緩い傾斜地に、寒さ除けに白いビニールの袋を被った苗木（みかん？）の広場があった。その脇には長さ 1.5m 位の錆びた鉄筋でできた籠が転がっている、多分猪捕獲用であろうか。更に登って行くと水仙の群生地が現れた。この群生地、どんどん上の方まで広がっている。これは見応えのある景観だ。これがずっと続いているので、どんどん登ってしまった。

もう少し上を見極めようと登って行ったら農作業用の道へ出た。止まり木の上に鳥の巣箱のような箱がある、「水仙スタンプラリー　第 1 ポイント」の表示があった。水仙の間に 20 個位の養蜂箱が置かれていたが、蜂さんはお留守のようだった。水仙は満開で今が稼ぎ時の筈なのに。また緩くなった農道を進んで行くと、上から大型カメラを担いだ人が下りてきたので、訊くと「展望台は 3 分程先に分かれ道があり、その先だよ」と教えてくれた。“あと 3 分”と聞いて元気が出て、登ると自動車道へ出た。頂上で左手が少し下っているが、その先まで行くと、左手の山の切れ目から東京湾が遠望できた。左手に道があり、その先に広場らしき所がある、行ってみると正に“展望台”だった。最後の所は全く標識がなかったので、見逃すところだった。展望台からは東京湾と南房総市の町が望めた。

11 時 50 分展望台から引き返す。この頂上付近から真っ直ぐ下へ下る道があるのだが、かなりの急坂らしいので、“初めの計画”通り元来た道を引き返すことにした。地元の人だろうか年配の女性 2 人と会ったら「（あの急坂の方に）立派な水仙群が咲いていますよ」と教えてくれたが、登って来た道でも水仙群生地はかなり上まで広がっているので、十分見応えがありました。晴れて暖かくなったせいか、水仙の芳香がかなり強くしてきた。12 時 20 分水仙歩道の入口へ戻ってきた。正面に双耳峰の「富山」（トミサン、標高 350m）（南総里見八犬伝の伏姫と八房が隠れ住んだ山）が望めた。

12 時 50 分道の駅「富楽里とみやま」に戻って来た。予定のバスは 13 時 55 分発なので、テラスのテーブルに座ってラーメンを食べて待った。バスに座ったら疲れていたせいで、静かな動揺にぐっすり眠り、目が覚めたら環七から新宿駅の方に曲がるところだった。15 時半に帰着して新宿駅前で解散した。

今回は丁度満開の水仙とその芳香を存分に満喫することができた。海抜百数拾メートルの比較的低山ながら、その南面には広く水仙の群生地が広がっており、満足できる場所であった。なおかつ新宿から往復バスで、乗換えがないので、ゆったり帰ってくることができた。再び訪地しても良いなと思った。

以上　　陽田

満開の水仙群生地

展望台から眺めた南房総の街と東京湾

水仙の間に置かれた養蜂箱